



# 会報

東京都中学校長会

平成 31年1月21日

第 399 号

発行 東京都中学校長会  
会長 小澤 雅人  
〒105 港区西新橋 1-22-13  
-0003 全日本中学校長会館202号  
電話 03 (3504) 8705  
FAX 03 (3504) 8706

〈巻頭言〉

## 今、改めて「報・連・相」を考える

副会長 酒井 泰  
(府中市立府中第五中学校長)

学校現場でよく使われる言葉に「『報・連・相』の徹底」がある。校長が学校経営の方針を教職員に話す際に必ず使う言葉ではないだろうか。私も年度初めの職員連絡会においてこの言葉を学校の組織的な動きを円滑にするために心がけてほしいこととして示している。実はこの言葉は学校現場だけでなく、様々な企業でも使われ、いわゆる学校関係者だけに通用する教育用語ではなく、世の中に広く浸透している表現である。私がこの言葉のルーツを知ったのは、ある新聞のコラムだった。その記事によると「ハウレンソウ」は旧山種証券社長の山崎富治氏により考案されたものだそうで、学校では教員から管理職への適切な情報提供により学校としての的確な判断ができるようになるための欠かせない行動を指している。

ところで、私たち校長が求める「報・連・相」とはどのようなものだろうか。内容や状況によって異なるため、明確で統一的な基準を設けるのは難しい。しかし、そこには的確な「報・連・相」を求める校長としての基準が存在するはずである。校長にとってはこの基準をいかに確実に教職員に伝え、浸透させるかが重要である。何をいつ誰に報告・相談するのか。この「何を」「いつ」「誰に」すべてに基準が存在し、「この内容なら校長に」「このケースなら副校長に」「次に会った時の報告でよいのか」「直ちに報告すべきか」というようなことである。昔なら校長の指示を待つまでもなく、ベテランの教員から若手教員に指導がなされていたが、現在は年齢や経験年数の若返りによって、過度の期待を寄せるのは危険である。ベテランでも若手教員でも念のため確認を怠らないようにした方がよい。

校長としての基準がありながら、職員に話す

き、「『報・連・相』の徹底を頼みます」で終わることが多い。また、「何かあってからではなく、事前に連絡・報告を頼みます」という言葉を付け加える程度ではないだろうか。

校長としては、そもそも何でもかんでも報告することまで望んでいないと

思うし、そんな時間もない。しかし、今抱えている案件が自分の責任の範囲で収まるかどうか悩んでいる教員が多くいるのではないだろうか。往々にして自分のところで止めて良いと思っていたところ、事が大きくなって管理職に報告したら、「なぜもっと早く報告しなかったのか」と指導を受けるケースもあるのではないかと思う。報告すべき内容とレベルを一覧表にして示すことができなければこうした問題は起こらないのかもしれないが、所詮それは無理なことだと思う。私は、それならば、「現時点ではこのことが大きくなるかならないか分からないが、もし大きくなった時に自分で抱えきれないと思ったことは管理職に報告し、自分の心を軽くしなさい」と言っている。情報を自分一人で抱えないで、シェアをすることによって気持ちを楽にするように促している。

「校長先生、ちょっといいですか。」「少し早目かと思いますが、現在の状況を報告しておきます。」「今後の方向性を確認しておきたいのですが。」「校長室でこの言葉を聞くとなぜか安心感を覚える自分がいる。



# 11月 区市等校長会長連絡会報告

## 12月 地区代表者連絡会報告

### ■11月 区市等校長会長連絡会報告

日時 平成30年11月13日(火) 15時～17時

場所 新宿コスミックセンター

#### 1 会長あいさつ

- 第69回全日本中学校長会鳥取(米子)大会の報告とお礼
  - ・新学習指導要領の実施にともない「主体的・対話的で深い学び」について再度捉えなおすことの重要性について
- 「問題行動に関する調査」の発表
  - ・いじめ、不登校への取り組みについて
- 当面の課題
  - ・東京都中学校長会研究大会への出席、対応のお願い  
11月22日(木)なかのZERO・大ホールで開催。多くの校長先生方の出席を。
  - ・本会の活動の評価、検討について
- 連絡・報告事項
  - ・第75回大都市中学校長会連絡協議会大阪大会について  
11月14日・15日大阪市内にて。都からは、新宿区立落合中学校岩永校長が話題提供
  - ・第61回東京都教職員物故者追悼式について
  - ・平成31年度の予定について

#### 2 行政説明

- 平成31年度 教員の人事異動等について  
東京都教育庁人事部 主任管理主事  
泉澤 太 様

#### 3 連絡・報告事項

- (1) 各部・各委員会より
  - 【総務部】
    - ・平成31年度活動方針案について
    - ・研究会会場図について
    - ・会報について
  - 【会計部】
    - ・退職予定調査未提出地区あり、協力を
  - 【教育対策部】
    - ・次年度定期総会に向けての「予算・施設・人事」等に関するアンケート調査を実施予定(12/20～1/18)。
  - 【研究部】
    - ・アンケート回答のお礼と研究大会について
  - 【人権教育推進委員会】
    - ・11月26日講演会。各地区3割の出席を要請
  - 【進路対策委員会】
    - ・都立高校志望校調査について

#### 4 全日中より

- ・第69回全日本中学校長会鳥取(米子)大会の報告

#### 5 事務局より

### ■12月 地区代表者連絡会報告

日時 平成30年12月13日(木) 15時～17時

場所 新宿コスミックセンター

#### 1 会長あいさつ

- 東京都中学校長会研究大会のお礼
- 当面の課題
  - ・平成31年度 東京都中学校長会活動方針について
  - ・平成30年度 校長、管理職選考等の結果について
  - ・入学者選抜等の書類の作成、提出について
- 連絡・報告
  - ・都教育庁指導部との教育連絡会について
  - ・平成31年度東京都中学校長会定期総会・研究発表会に向けた拡大実行委員会の開催について
  - ・都公立小学校長会との教育連絡会について

#### 2 行政説明

- 「部活動の実施状況及び部活動指導員について」「性教育の実施状況結果等について」  
東京都教育庁指導部指導企画課 主任指導主事  
(体育健康教育担当) 伊東 直晃 様
- 「英語スピーキングテストについて」  
東京都教育庁指導部指導企画課 主任指導主事  
(英語調査担当) 清野 正 様

#### 3 連絡・報告事項

- (1) 役員会より
  - ・第75回大都市中学校長会連絡協議会大阪大会について
  - ・都公立小学校長会との教育連絡会について
- (2) 各部・委員会より
  - 【総務部】
    - ・東京都中学校長会研究大会出席率について
    - ・会報掲載予定の退職校長一言集について
  - 【会計部】
    - ・集金の未納地区について
    - ・退職予定者の確認について
  - 【教育対策部】
    - ・アンケート：東京都中学校長会「予算・施設・人事」等に関する調査について
  - 【研究部】
    - ・東京都中学校長会研究大会の資料は校長会HPに
  - 【生徒指導部】
    - ・2月18日研修会の案内について
  - 【人権教育推進委員会】
    - ・11月26日講演会の報告とお礼
  - 【進路対策委員会】
    - ・志望校調査の依頼と集計の発表等について
    - ・入試関連諸調査と主なQ&Aについて
  - 【修学旅行対策委員会】
    - ・連合体輸送の集約について

#### 4 全日中より

#### 5 事務局より

#### 6 情報交換

# 第75回 大都市中学校長会連絡協議会大阪大会

平成30年11月15日（木）・16日（金）

第75回大都市中学校長会連絡協議会大阪大会が、シェラトン都ホテル大阪で開催された。

大会の趣旨である「大都市のもつ中学校教育にかかわる諸問題について、情報交換、研究協議を行い、その解決の方途を探りながら、各都市における中学校教育の充実・発展を期する。」に基づいて活発な協議が行われた。



## 〔第1日〕

### 1 開会式

国歌斉唱

大会会長挨拶

(大阪市立上町中学校長 笹田 文雄)

来賓祝辞、来賓紹介、日程説明

### 2 分科会

第1協議題：調査報告、話題提供、意見交換、協議

第2協議題：調査報告、話題提供、意見交換、協議

### 3 会長会

挨拶、自己紹介、協議、情報交換、事務連絡

## 〔第2日〕

### 1 分科会

第3協議題：調査報告、話題提供、意見交換、協議

### 2 全体会

分科会報告、会長会報告、大会宣言

### 3 閉会式

会長挨拶、次期開催都市挨拶

## 【分科会協議主題及び提案都市】

### (1) A分科会

「学校経営上の諸問題に関する内容」

第1協議題（話題提供都市：新潟市、大阪市）

学校経営の組織・管理・運営等に関する現状と課題

第2協議題（話題提供都市：川崎市、大阪市）  
学校評価と評価結果の活用に関する現状と課題

第3協議題（話題提供都市：岡山市、大阪市）  
学校経営を支える人事管理・人事異動の現状と課題

### (2) B分科会

「教育指導上の諸問題に関する内容」

第1協議題（話題提供都市：札幌市、大阪市）

教育課程の実施と管理に関する現状と課題

第2協議題

（話題提供都市：東京都新宿区、大阪市）

新しい時代に求められる資質・能力の向上を目指した指導の現状と課題

第3協議題（話題提供都市：神戸市、大阪市）

特色ある学校づくりに関する現状と課題

### (3) C分科会

「大都市特有の諸問題に関する内容」

第1協議題（話題提供都市：横浜市、大阪市）

生徒指導に関する現状と課題

第2協議題（話題提供都市：静岡市、大阪市）

中学校における進路指導・人権教育に関する現状と課題

第3協議題（話題提供都市：北九州市、大阪市）

開かれた学校づくりとPTA活動・地域との連携の在り方

## 大会宣言

今日、わが国の教育は人格の完成を目指し、伝統や文化を継承・発展させるとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

これからの社会は、「人生100年時代」の到来、超スマート社会の実現に向けて人工知能やビッグデータの活用など技術革新が急速に進む大転換を迎えることになり、この時代を乗り越え、活躍できる力を身に付けるうえで、教育が果たす役割は限りなく大きいものである。

私たちは、中学校教育の意義と責務を真摯に受け止め、子どもたちが夢と自信を持ち可能性に挑戦するための必要な力となる「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和と、社会を「生き抜く力」をはぐくむという教育の創造を一層推進しなければならない。

大都市中学校長会は、互いの信頼と連携を深め、21世紀をたくましく生き抜く豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成に努めることで、保護者をはじめ国民の期待と信頼に応えたい。

ここに第75回大都市中学校長会連絡協議会大阪大会にあたり、下記の事項を決議し、その実現を期する。

## 決議

一、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に徹し、平和であたたかな未来社会を切り拓き、「生き抜く力」をはぐくむ教育を推進する。

一、次期学習指導要領の趣旨と移行期間の基本方針を踏まえ、社会に開かれた教育課程の実現を通して、確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成に努める。

一、生涯学習の視点に立ち、将来の自己実現のための資質や能力、及び、望ましい勤労観・職業観の育成を目指すキャリア教育の推進に努める。

一、時代を見据えた教育の今日的課題に即した研修の充実を図り、教職員の資質・能力の向上に努める。

一、家庭・地域・関係諸機関との連携を図り、相互の連携・協力を深め、学習や生活の基盤づくり、規範意識の育成に努める。

一、幼・小・中・高・特別支援学校の接続や連携を視野に入れた創意工夫ある教育活動を進めるため、学校経営・運営の改善を図り、信頼に応える開かれた学校づくりに努める。

一、災害等の危険に際して自らの命を守り抜くために、過去の経験を教訓として、安全・防災・減災教育の推進に努める。

一、教職員給与負担等の移譲にともなう勤務の諸条件を検証し、整備と充実を努める。

一、大都市特有の教育課題の解決を期し、教育諸条件の整備と充実を努める。

平成30年11月16日 第75回大都市中学校長会連絡協議会大阪大会

# 第69回 全日本中学校長会研究協議会

## 鳥取（米子）大会

■日 時 平成30年10月24日（水）～26日（金）  
（最終日12時35分閉会）

■場 所 第1日 米子コンベンションセンター  
第2・3日 米子コンベンションセンター 他

### 《大会概要》

#### 第1日

- 全日本中学校長会常任理事会
- 全日本中学校長会理事会
- 全体協議会運営委員会・分科会運営委員会

#### 第2日

開会式 9:30～10:20

1 開式のことば

2 国歌斉唱

3 あいさつ ・大会会長 山本 聖志  
・大会実行委員長 田村 穰

4 祝辞

文部科学大臣 柴山 昌彦 様  
（代読：文部科学省大臣官房審議官  
（初等中等教育局担当） 下間 康行 様）  
鳥取県知事 平井 伸治 様  
（代読：鳥取県西部総合事務所  
所長 中山 貴雄 様）

米子市長 伊木 隆司 様  
鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志 様

5 来賓紹介（祝電披露）

6 閉式のことば

文部科学省説明 10:25～11:10

全体協議会 11:40～12:25

1 議長団あいさつ

2 全体協議

〔主 題〕社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育

第1 研究協議題（全日中提案）

「学校からの教育改革 全日中教育ビジョン」  
～生徒指導部の調査研究報告書を通して～  
全日本中学校長会生徒指導部長 笛木 啓介

第2 研究協議題（九州地区提案）

『蒲江とともに歩む学園』づくりを目指して』  
～児童生徒の成長に資する小中一貫校としての取組を通して～

大分県佐伯市小中一貫校 蒲江翔南学園校長  
甲斐 徳人

3 宣言・決議の提案

4 議長団あいさつ

分科会 13:35～16:45

【第1分科会】（東北地区）

「社会に開かれた教育課程」の編成・実施

【第2分科会】（関東甲信越地区）

「主体的・対話的で深い学び」の実現

【第3分科会】（中国地区）

「よりよく生きようとする意思や能力を育む  
道徳教育の充実」

【第4分科会】（北海道地区）

「体力の向上と生涯にわたって運動に親しむ  
資質・能力を育てる教育の充実」

【第5分科会】（近畿地区）

「未来を切り拓くためのキャリア教育の視点  
に立った進路指導の充実」

【第6分科会】（九州地区）

「自他の生命を尊重し自己有用感を育む生徒

指導の充実」

【第7分科会】（四国地区）

「多様化・複雑化した学校教育課題に対応で  
きる教員の育成」

【第8分科会】（東海北陸地区）

「地域との連携・協働による『チーム学校の  
創生』」

#### 第3日

アトラクション 大山僧兵太鼓 9:20～9:45

全体会 大会宣言決議・他 9:50～10:10

記念講演 10:30～12:00

〈演題〉「夢と冒険～今リーダーに求められる  
力～」

〈講師〉株式会社モンベル代表取締役会長／  
米子・大山観光大使／登山家・冒険家

辰野 勇 氏

〈プロフィール〉

1947年大阪府生まれ。21歳の時、アイガー  
北壁の日本人第2登攀を成功させる。28歳で  
登山用品メーカー株式会社モンベルを設立。  
山岳雑誌「岳人」編集長。著書に「モンベル  
7つの決断」（山と溪谷社）他。

〈講演概要〉

16歳（高1）の時、国語の教科書にあった  
登攀記「白い蜘蛛」（ハインリッヒ・ハラー）  
を読み、アイガー北壁の日本人初登攀の夢を  
描いた。大人になって仕事に就くときは登山  
に関した事を生業にしたいと思った。

その後、カヌーと出会う。黒部川、グラン  
ドキャニオン、ヒマラヤなど、命がけの川下  
りだった。命がけのことをしながらいろいろ  
な分野の方と語り勉強した。勉強ができる人  
の共通点は、「集中力、持続力、判断力」が  
あることだ。これは生きる力でもある。そし  
てリーダーにとって、それ以上に大事な力は  
「決断力」だ。創業して30年、私が決断した  
ことは7つある。

①自然環境の意識向上②野外活動を通じて生  
きる力をつける③健康寿命の増進④エコツ  
ーリズムによる地域経済活性化⑤防災・発災時  
の対応力⑥農林水産、第一次産業の活性⑦パ  
リアフリー社会の実現

人間は、思いをもって、（そこまで）行こ  
うという意識をもってやり続けなければいつかは  
やり遂げられるかもしれない、やり遂げられ  
ないかもしれない。しかし終焉を迎える時、  
あれをやろうと思ひ、楽しんでこられたこと  
を幸せに感じられるのではないか。

企業存続の2つの条件は、①社会から必要  
とされているか②事業の経済バランスが取れ  
ているか、である。モンベルクラブの出資者  
に応分の活動をするために、7つのミッシ  
ョンを継続してやっていきたい。

閉会式 12:15～12:35

1 開式のことば

2 あいさつ ・大会会長 山本 聖志

・大会実行委員長 田村 穰

・次期開催地代表（群馬県）

宮崎 徹

3 閉式のことば

# 平成30年度東京都中学校長会 研究大会

■日時 平成30年11月22日（木） 14時開会

■場所 なかのZERO・大ホール

## ■概要

- 1 開会のことば 上原 一夫 副会長
- 2 国歌斉唱
- 3 会長挨拶 小澤 雅人 会長
- 4 来賓祝辞  
東京都教育委員会教育長 中井 敬三 様  
(代理 東京都教育庁指導部義務教育指導課長  
栗原 宏成 様)  
中野区教育委員会統括指導主事  
松岡 弘悟 様

## 5 来賓紹介

- 6 研究発表 司会 新村 紀昭 研究部長  
〔主 題〕「教育課程及び学校経営の実施・改善  
における課題と対応」

【第1主題】「教育課程の改善・充実に資する内容の調査研究」

【発表者】 平岡 盛仁 研究部副部長

### 【調査の意図】

今年度の教育課程編成における、重視している基本的な考え方や教育内容、編成上の課題、外国語教育、道徳教育の実施状況及び、全校実施となり3年目を迎えたオリンピック・パラリンピック教育、基礎体力向上策「アクティブプラン to 2020」の実施状況についての経年変化。移行期間が始まった新学習指導要領改訂のキーワード「主体的・対話的で深い学び」、「カリキュラム・マネジメント」、「特別の教科 道徳」、9月オープン「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の利用、「特別支援教室」の準備状況等について。以上を学校経営の視点を踏まえながら明らかにする。

### 【調査の内容】

教育課程及び学校経営の実施・改善における課題と対応

### 【調査の実施状況】

実施期間 平成30年8月1日～8月31日  
実施方法 都内公立中学校の全校長を対象に、東京都中学校長会ホームページ上のアンケートへの回答

回答状況 611校（回収率99.7%）

※【研究のまとめ】は「平成30年度 研究紀要」に掲載のため項目のみ掲載。

- (1) 教育課程及び学校経営の実施・改善における課題と対応について
- (2) オリンピック・パラリンピック教育の推進について
- (3) 総合的な子供の体力向上策「アクティブ

プラン to 2020」への取組について

- (4) 「主体的・対話的で深い学び」の実現について
- (5) カリキュラム・マネジメントの実施について
- (6) 「TOKYO GLOBAL GATEWAY」(TGG) について
- (7) 特別支援教室設置について

【第2主題】「各学校における『カリキュラム・マネジメント』推進状況についての調査研究」

【発表者】 宮城 洋之 研究部副部長

【事例発表者】 小池 雄志郎

清瀬市立清瀬中学校長

### 【調査の意図】

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」では、「カリキュラム・マネジメント」について「学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと」としており、3つの側面を通してその充実に努めることを求めている。ここでは、「カリキュラム・マネジメント」を実施する上での課題を明らかにし、その解決や改善に向けた方策を提言することを目的として、3つの側面から平成30年度教育課程の編成状況及び実施状況の調査を行う。

### 【調査の内容】

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の推進状況について

### 【調査の実施状況】

実施期間 平成30年7月23日～8月17日  
実施対象 東京都中学校長会地区代表校の校長  
または地区代表校長から推薦された  
中学校の校長

回答状況 53校（回収率100%）

### 【研究のまとめ】※項目のみ

- (1) 教科横断的な視点からの教育課程の編成について
- (2) 教育課程の実施状況の評価と改善について
- (3) 人的又は物的な体制の確保について
- (4) おわりに

## 7 質疑応答

## 8 活動報告「生徒指導の現状と課題」

【発表者】 牧野 英一 生徒指導部副部長  
千葉 高志 生徒指導部員

9 講評 東京都教育庁指導部義務教育指導課長  
栗原 宏成 様

10 閉会のことば 高岡 麻美 副会長

## 八丈島 全校生徒55人での学校経営

八丈町立大賀郷中学校長 松岡 健

### 1 八丈島の紹介

八丈島は、全国的にも鹿児島県奄美大島、三重県尾鷲に次ぐ降水量の多い地域で、天候の変化が激しい。東山（三原山701M）西山（八丈富士854M）という2つの山がそびえ、自然豊かで晴れ渡ったときの光景はここが東京都？と感ずることがある。島がひょうたんの形をしており、中央のくびれた付近に平地があり、町役場、空港を始め、多くの施設がそこに集中している。2つの山は、ここ数百年の火山活動は確認できていないが、火山活動の痕跡は島内随所に残っており、太平洋の海から激しい波が打ちつけ、すぐに崖になっている場所も多い。都心から300キロ離れているが、伊豆諸島では唯一、全日空のジェット機が就航しており、羽田から約50分で到着できる。そのため、観光客も多く、釣り、海水浴、ダイビング、シュノーケリング、トレッキング等を楽しむ姿をみかける。内地のスポーツ団体も合宿目的での来島があり、天然芝のサッカー場、人工芝の野球場は、年間を通して使用されている。

### 2 本校の概要

本校は、創立65年目を迎え、各学年1学級（梅組）、特別支援学級2学級（知的：桃組、肢体：桜組）の全校生徒55人の小規模校である。主な学校行事としては、1学期に広島、関西への修学旅行、職場体験、2学期に運動会、陸上記録会、音楽会、3学期に学習発表会を実施している。地域の人材を活用しての授業や活動も多く、八丈太鼓、郷土料理教室、お魚教室等では、長年にわたって継続した協力を頂いている。また、今年度は、東京都のスーパーアクティブスクール指定校として3年目を迎え、11月7日には研究発表会を実施した。保健体育の授業、運動系の部活動を要に、生徒会主催の運動への取り組みなど地道な活動が、生徒の体力測定において数値の上昇としてあらわれてきた。体力向上と生涯を通じて運動・スポーツに楽しむ精神の育成は確実に培われている。

### 3 目指す学校、育てたい生徒像

「明るく楽しい学校」を目指し、日々の教

育活動を遂行している。教育活動すべては、生徒のためにある。明るく楽しい学校とは、生徒の心が開かれ、歌声に満ちあふれ、学校に行くのが待ち遠しい学校。また、生徒、教師、保護者、地域が信頼関係で結ばれ、安心して通うことのできる学校と考えている。教育目標にも掲げている「進んで学習する生徒」「礼儀を大切にする生徒」「心身共に健康な生徒」を目指し、自分の力でたくましく生き抜く生徒の育成に教職員一丸となっている。

### 4 学校経営上の課題

人口7,000人の八丈島では、どうしても狭いコミュニティでの生活になる。小中学校では、クラス替えがなく、人間関係に変化がない。島内に高等学校は都立八丈高等学校1校。内地にあるような同じ学年の生徒が切磋琢磨して、学力向上を目指す光景や進路を切り開いていく場面が少ない。そこで、土曜日や長期休業中に学習教室を開催、高等学校、小学校の教員にも協力をあおぎ、学力の底上げを図っている。幸い生徒たちには、学習教室に参加して学力を高めたいとの意欲があり、今後の期待が高まる場所である。教職員集団については、各教科1人ずつの教員配置で、全学年の生徒を教えるという環境である。同じ職場に同じ教科の教員が存在しないという部分では、学習指導のOJTが難しい。そのことを補う意味でも、近隣小学校や中学校との教職員交流は欠かせない。八丈町の指針もあって、大賀郷小学校との一貫教育（通称：大賀郷学園）を推進していく所存である。

### 5 これからの大賀郷中学校

今年度の研究テーマは、「キャリア教育の充実」。キャリアに関する研究授業を各教科、道徳、総合的な学習で行うことや島外から講師を招き、生徒向けの講演会を実施し、自らの将来を見据える機会を意識的に設けている。3年生には、毎回の朝礼で一人ずつ、自分の将来についてのスピーチも実施している。全校生徒が少しずつではあるが、自分の生き方についてのイメージを膨らませている。今後の大賀郷中学校に期待していただきたい。

『随想』

## 猪突猛進、馬車馬のように突っ走ってきた、37年間でした

墨田区立寺島中学校長 松井 隆

平成31年3月で定年退職になります。在職中、生徒をはじめ、実に様々な方々と出会い、お世話になりました。ご縁を頂いたすべての方々に深く感謝いたします。

不思議なもので、今までの教師生活を振り返ると、教師になった前後のことが、なぜか鮮明に思い出されます。理学部で地球物理学を専攻し、物性研究所で、超高压超高温実験をして、地球マントルで安定な単結晶の1つを世界で初めて作りました。当時、我が国の自然科学は、先進国の中で飛ぶ鳥を落とす勢いがあり、多くの分野で、私のような学生でも少し根を詰めて実験してみると、世界で初めてのものがどんどん出来てしまう時代でした。科学者を目指しましたが、大学院の受験に失敗しました。この段階で落ちるようでは、私には科学者としての脈はないと思い、また、オーバードクターがゴロゴロしていて、職に付くのが困難な状況があり、私は恐れをなしました。「研究者がだめなら、教師があるさ」、その時の教育界は、校内暴力が真っ盛りでした。しかし、寧ろ、教師の仕事も面白いかも知れないと考え、理科教師になりました。

昭和58年、初任校の世田谷区立奥沢中に意気揚々と赴任しました。ところが、そこでの初めの2年間は、なかなか二進も三進もいかないことだらけで、自分は教師には向かないのかなと考えていました。そんな3年目の4月でした。その頃、生活指導困難校で有名なM市G中から、英語の金高輝雄先生が、そして、やはりNHK特集で取り上げられたT市N中から、理科の小出統英先生が奥沢中に赴任して来られました。私より9歳年上の、このお二人の先生との出会いが、私を変えま

した。私は、お二人の先生が、生徒とともに、汗水を流しながら、奥沢中を日に日に活性化していく教育実践に触れ、その教師としての在り方や生き方に感銘を受けるとともに、教師の道に希望を見いだしました。奥沢中では、まず私が、猪突猛進、馬車馬のように突き進み、後からお二人の先生が地均しをするといった体でした。けっして最善な手法ではありませんが、3年後、確かに奥沢中は見違えるような輝く学校になっていました。気が付くと、私達3人は、生徒や保護者、他の先生方からも、「奥沢中の三〇〇トリオ」と称され、褒められ、認められた程(?)でした。兎にも角にも、この時、学校はまず3人寄れば、3年で何とかなると実感しました。教師14年目、荒川五中で、理科・生徒指導・剣道部の三つに没頭していた頃、ちょうど奥沢中の50周年記念式典に呼ばれ、そこで初任時の奥沢中の校長先生であられた下條敏伸校長先生にお会いしました。その元校長先生から、教頭選考を受けることを勧められ、それを機に管理職の道に入りました。

講師1年、教諭18年、教頭副校長9年、校長9年、突っ走ってきました。学校改善を目指し、教育困難校からの回復と学力向上の学校作りが主な仕事でした。まるで物理の初期条件のように、初任の奥沢中でのことが大きく影響し、教師人生の方向性が決まり、突っ走り、定年退職という境界条件まであっという間でした。皆様のお陰様で何とかやって来ました。悔いはありません。天職でした。心から感謝し、今後の皆様のご活躍を期待しております。「老兵は、けっして死なず、ただ去るのみ」であります。

## 1. 昭島市について

昭和29年5月に北多摩郡昭和町と拝島村が合併して東京都で7番目の市として昭島市が誕生しました。東西6km、南北3km程で、南に多摩川、北に玉川上水が流れ、豊かな緑と水に恵まれる昭島市は、市内の水道水が100%深層地下水です。また、160万年前は市の南側は海で、その当時のクジラの全身骨格が市内の小学校の教員によって発掘されたのが昭和36年でした。平成30年1月に新種のクジラとして世界で認められました。(学名:エスクレウス・アキマエンス)

昭島市は水と緑とクジラのまちとして、「住んでみたいまち、住み続けたいまち」に11万3,300人(平成30年11月現在)の市民が元気に生活しています。

## 2 昭島市の教育について

昭島市のまちづくりの理念である「人間尊重」と「環境との共生」のもとに昭島市教育委員会は目標を、『広く国際社会において信頼と尊敬の得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童・生徒を育成する。』また、『学校・家庭・地域の密接な連携のもと、ふるさと昭島の自然や文化を愛し、社会に主体的に貢献できる「たくましい昭島っ子」の育成を目指す。』としています。昭島市には6校の公立中学校と13校の公立小学校があり、平成27年度からの5年間は「第2次昭島市教育振興基本計画」に基づき昭島市の教育目標の具現化を図っています。

学校、家庭、地域との密接な連携のもと、個性を生かす教育を推進するために、次の4つの

基本方針を昭島市の教育の柱としています。

- 1 確かな学力の定着
- 2 豊かな心の醸成
- 3 健やかな体の育成
- 4 輝く未来に向かって

## 3 各学校の取組

昭島市は東京都の「中学校英語教育推進モデル地区」として、全校で小学校英語との接続を図った先駆的な取組について研究を進めています。また、各学校では「第2次昭島市教育振興基本計画」に基づいて作成した教育推進計画の実現に向けた教育活動を進めています。

昭和中：昭島市研究奨励校3年目

「東京都道徳教育推進拠点校」

昭島市研究指定校1年目

「働き方改革推進校」

福島中：昭島市研究指定校2年目

「アクティブ・ラーニングの視点研究実践校」

瑞雲中：昭島市研究指定校3年目

「小中一貫教育研究実践校」

清泉中：昭島市研究奨励校3年目

「東京都体力向上スーパーアクティブスクール」

拝島中：基礎学力・体力の向上と道徳指導充実  
研究テーマ「道徳教育の指導力向上」

多摩辺中：基礎学力の向上「ベーシック教室」  
18人の支援員を活用した補習教室  
の充実(毎週火曜日、適宜土曜日)

学校や地域の実情に合わせた教育推進計画実現への取組は、昭島市教育委員会の支援により、一步一步着実に成果を上げています。